

乳房炎部会から

～ 乳房防除対策と 搾乳立会～



今回は乳房炎防除対策と搾乳立会についてお話したいと思います。

乳房炎防除対策の要点

乳房炎は、乳頭先端の乳頭口から最近が侵入・感染することによって引き起こされる感染症です。症状の明らかな臨床型乳房炎は乳房炎全体の一部であり、大部分は明らかな症状のない潜在性乳房炎であり、潜在性乳房炎は臨床型乳房炎の予備軍となっています。したがって、乳房炎防除は、現在感染している臨床型乳房炎を減らす（感染期間の短縮：早期発見と治療）ということと、新しい感染を減らす（潜在性乳房炎の予防）ということが大きな柱となります。

搾乳立会の目的

乳房炎や乳質に関して問題が起きている農場を実際に訪問し、搾乳作業に立ち会います。その調査結果から問題の原因を客観的に診断し、具体的な改善策を提供することによって、牛群における乳房炎の発生を減少させて乳質を改善することが、搾乳立会の目的です。

搾乳立会の流れ

事前調査:事前にバルク乳細菌培養成績、体細胞数や生菌数情報、乳検情報や乳房炎発生状況、その他聞き取り調査結果などを整理し、農場の現状を再確認します。また、立会後の具体的な目標を設定します。

支援チーム編成

J A、普及センター、N O S A I など畜産関係機関が参加して支援チームを編成します。

立会当日

農場の搾乳時間に合わせて立会を実施します。事前に準備したチェックリストに基づいて、以下の各項目についてチェックします。

- ①牛舎衛生・管理:敷料、運動場、牛体の状態、処理室などの衛生状況や飼養管理についてチェックします。

- ②牛舎構造：牛床の長さ、照明、換気などの牛舎構造をチェックします。
- ③搾乳システムの洗浄：システム洗浄状態、洗剤の濃度、洗浄水の温度などをチェックします。
- ④搾乳方法の観察：推奨される搾乳衛生・搾乳手順を実施しているかをチェックします。
- ⑤ラップタイム計測：牛ごとに前搾り開始、ユニット装着、ユニット離脱のラップタイムをとり、前搾りから装着までの時間と搾乳時間を計測します。
- ⑥搾乳中のシステム作動状況：搾乳中に目と耳でわかるようなシステムの異常がないかチェックします。定期的な搾乳システムの保守点検および分析は立会前に専門業者に委託して実施しておきます。
- ⑦個体乳サンプルとバルク乳サンプルの採取、そのほか必要に応じて乳頭清拭用殺菌剤など各種サンプルを採取して細菌培養検査を実施します。全頭全分房の細菌検査を行うことで、各個体、各分房が持っている細菌叢を把握します。

結果の分析

立会調査結果、細菌培養検査結果、バルク乳細菌培養成績、乳検情報などを分析して問題が起きている原因を診断し、設定した目標に向けての改善策を協議します。

現地指導

酪農家と支援しチームが集まって、明らかとなった問題点と改善点について一緒に話し合い、実施すべき改善点を提示します。

定期巡回

立会実施後、バルク乳の細菌培養検査、生菌数や体細胞数、新規乳房炎感染率などを継続してモニタリングし、改善状況や新たな問題点が発生していないかを定期的に確認します。

大きな問題が解決される過程で小さな問題は解決されると考えられます。ただマニュアルをなぞるだけでは効果が現れにくい面もあり、何が重要かを考察し、農家ごとに適した改善策が求められます。また、改善策の結果どうなったのか再評価することは非常に重要です。

阿寒釧路支所家畜診療課 高尾 聡

